

「モノ作り商社」を標ぼうする一村産業(大阪市北区)は、中国、ベトナム、インドネシア、インドで生地を生産しつつ、国内生産も堅持していく。国内は高付加価値化、海外はコスト対応と納期短縮で使い分ける。住宅資材(旧化成品)事業出身の大嶋秀樹社長だが、昨年6月の社長就任以来、繊維事業の実態を把握し、早速改革に乗り出した。



【略歴】
おおしま・ひでき 1983年一村産業入社。2012年取締役産業資材事業部門長兼優水化成工業取締役、18年常務、22年専務を経て、23年6月から社長

一村産業

Top インタビュー 社長

大嶋 秀樹 氏

——一村産業にとつての共創・協働とは。当社は繊維事業でも住宅資材事業でも「モノ作り商社」を標ぼうしています。国内外問わず、生産を請け負ってくれる人たちとしっかり取り組んでいかなければ当社の存続もありません。繊維事業の国内では北陸産地の織布工場や染色加工場との関係性がものすごく重要で、海外では中国、ベトナム、インドネシア、インドなどのモノ作り企業と連携しています。短縮を図りたいと考えています。

——海外での生地生産も積極化しています。海外の生産を使い分けるのか。その最適解を常に探り、方向性を見定めていきます。意識しているのは、当社が近くなってインドを加え、生地生産のグローバルサプライチェーンを構築しています。国内生産も進める考えです。——4月から組織を改正しました。繊維事業は売り上げが前期比8%増で、事業利益が85%増でした。増収の内訳はユニフォームが5%増、スパンポリとラフスタイルが共に14%増です。ユニフォームは別注案件が苦戦したのですが、新規も獲得でき、

高付加価値化で国産堅持

す。後ろについていっての高級品を共に作り上げていく。それをしっかりと販売し、安定発注につなげていきます。コストだけを見れば国内は海外に劣りますが、技術力はまだまだ高い。そこは海外に設け、社長である私以外にも繊維と住宅資材の両事業を見る立場を作り出した。そのポジションに繊維事業のトップだった柴司取締役が就いてもらいました。今後、繊維と住宅資材の融合を図っていくための初動でもあります。

繊維と住宅資材の融合図る

——2024年3月期決算の概要を。繊維事業は売り上げが前期比8%増で、事業利益が85%増でした。増収の内訳はユニフォームが5%増、スパンポリとラフスタイルが共に14%増です。ユニフォームは別注案件が苦戦したのですが、新規も獲得でき、

最近の「チ」贅沢

グリーン車はやっぱり快適

化成品事業出身で昨年6月に社長に就いたばかりの大嶋さんは産地行脚など繊維事業を“学ぶ”途上にあり、「贅沢する時間などない」とこぼす。あえて挙げるとすれば、「新幹線のグリーン車はやっぱり快適だった」と大嶋さん。大阪・東京間のチ贅沢な時間だ。規定により同社では社長しかグリーン車の経費は出ない。「せめて役員はグリーン車に乗れるぐらいの会社になりたい」というのが大嶋さんの新たな目標。

IMA ICHIMURA®

IMA ECO®

[イマエコ]

一村産業の事業コンセプト「IMA ECO(イマエコ)」は、省エネルギー・バイオマス由来・リサイクル・環境負荷低減・プロセス革新など多様化するサステナブルの要素・概念を、「AMIDO(高通気素材)」や「LUXTRIMA(高耐久ストレッチ素材)」などの当社機能素材、スパンポリエステルなどの感性素材と組み合わせ、また協賛産地企業が取り組む、節水・節電・CO2削減・マイクロプラスチック対応などの活動と連携させることによって、お客様のサステナブルなストーリーに合わせた環境配慮型テキスタイルを現物でご提案するものです。

北陸産地企業のエコ活動やエコ商品が検索できるプラットフォームサイト公開中 >>

